

文部科学省実施 令和6年度
教師の英語力・指導力の向上のための
実践的オンライン研修
(中・高等学校教師プログラム)
実施のお知らせ

令和5年度の全国学力・学習状況調査の英語の結果において、特に「話すこと」「書くこと」に課題が見られたため、生徒の英語による発信力の更なる強化が必要となっています。また、令和4年度英語教育実施状況調査の結果において、生徒の英語力は着実に向上しているものの、地域間格差や教師の英語力・指導力等の課題が見られます。そのため文部科学省では令和5年度に引き続き教師の英語力・指導力の向上及び地域間格差の解消に向けて、双方向とオンデマンドを組み合わせたオンライン研修を実施します。

都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校の参加申込受付は、当研究所がとりまとめを行います。是非ご参加いただきたくご案内します。

☆日本の中高の英語教師の現状やニーズを踏まえて開発したコースです。研修を通して、言語活動を通じた指導についての効果的な技術を習得し、授業改善を確実に進めます。

◎研修の特徴

- ・発信力の強化、特にスピーキング（やり取り）の指導に焦点を当てた10時間のコース。
- ・ライブで実施するワークショップ（同時双方向型）でデモ授業を体験。実際のコミュニケーションの過程で必要な様々な指導上の配慮（支援）の具体的・実践的な例を知る。
- ・セルフアクセス（eラーニング）8時間を通して、第二言語習得、動機付け、学習科学などの最新の科学的根拠に基づいた効果的な指導法と、その指導を行うべき「理由」や効果への理解を深める。
- ・研修で学んだ具体的・実践的な指導技術を実際に行う「事後タスク」に取り組むことで、授業改善を進め、受講者の指導に対する自信をより高め、生徒の英語力の向上につなげる。

★概要

会 期	【中学校】令和6年6月～12月 【高等学校】令和6年8月～12月
会 場	オンライン研修
募集人員	100名（【中学校】30名 【高等学校】70名）
申込締切	5月14日(火) FAXまたはメール必着
参加対象	都道府県私学協会加盟の私立中学校、高等学校、中等教育学校の英語科教員
受託先	ブリティッシュ・カウンシル
参加費	無料 オンライン研修に必要なPC、付属品の準備とPCに係る費用等は負担いただきます。

実施案内・参加申込書は当研究所ホームページからダウンロードできます。



★研修内容

【中学校】

ライブ(ワークショップ)では、帯活動などで繰り返し取り組むことができる「スモールトーク」の進め方や指導技術を紹介します。オンラインで実施するデモ授業への参加、指導技術のマイクロティーチング(模擬授業)を通して、「即興で伝え合う」「対話を継続する」等について具体的な指導技術を知り、授業実践に向けて自信を高めます。

セルフアクセス(eラーニング)は3ユニットに分かれます。

1. 【やり取りの指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論、生徒を上達に導く評価、技能統合型の指導等を扱います。
2. 【語彙指導】スピーキング力を高めていくには、生徒の語彙力の充実が必要になります。生徒の記憶に残る新出語彙の導入の方法、既習語彙を繰り返し扱うことや使う練習をする際の留意事項等を紹介します。
3. 【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援の具体例や評価等を扱います。

【高等学校】

ライブ(ワークショップ)では、「読むこと」と「話すこと」の技能統合型の指導のデモ授業と分析を行います。受講者の興味関心に基づき、次のいずれかを選択します。

- ・ A コース：生徒の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR A1 や、A2 の生徒の力を伸ばす)
 - ・ B コース：特にグローバルに活躍することが期待される層の英語力を伸ばすこと(イメージ：CEFR B1 以上を目指す生徒の力を伸ばす)
- セルフアクセス(eラーニング)は3ユニットに分かれます。

1. 【やり取りの指導】「話すこと」、特にやり取り指導を効果的に進めるための理論や、生徒を上達に導く評価、技能統合型の指導等を扱います。
2. 【語彙指導】言語学習の根幹である語彙の学習方略や生徒の長期記憶に定着させるための支援について考えます。リーディングやリスニング中の語彙の扱いや、課題別に、学習過程のあらゆる段階で行う配慮等も扱います。
3. 【書くことの指導】すべての生徒が自分の意見や経験を表現し、課題を完了できるようにするための支援、生徒を上達に導くための評価、まとまりのある文章を書くための支援等を紹介します。

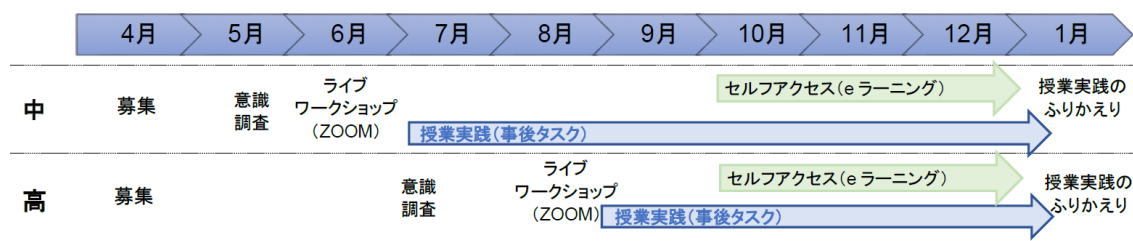
★受講形式

中高ともに、ライブ(ワークショップ)とセルフアクセス(eラーニング)の2つで構成されます。

- ・ライブ(ワークショップ)：ZOOMを使って同時双方向で行う2時間程度のワークショップです。経験豊かな講師が実演する模擬授業に参加します。
- ・セルフアクセス(eラーニング)：自分で学習時間を決めて進めていく8時間のeラーニングコース。10～12月にご自身のペースで取り組みます。

※研修期間中、上記と連動した授業実践を支援するための「事後タスク」に取り組みます。「事後タスク」とは、研修で紹介された具体的・実践的な指導技術を実際に使った言語活動を実践し、その成果や課題をオンラインフォームで報告するものです。

★研修の流れ



★受講者に期待されること(受講要件)

- ・本研修を主体的に受講し、授業等の改善に積極的・継続的に取り組む意欲があること。
- ・研修で課された課題(事後タスクや意識調査など)に必ず取り組むこと。
- ・研修で得た知識や技術を、日常の授業で実践すること。
- ・研修で必要とされるICT環境を整えられること。
- ・必要に応じて所属校での調整(研修受講の時間調整や授業実践に向けて所属長や同僚から理解や協力を得ること)ができること。
- ・受講者の英語力の指定は行いません。

※研修時期や内容は今後変更になる場合があります。正式な募集は4月以降に行います。